



三菱マテリアル株式会社

2026 年 3 月期第 1 四半期決算説明会

2025 年 8 月 7 日

質疑応答

質問者 [Q]：1Q の実力利益は、営業利益と経常利益でそれぞれどうだったか（一過性要因ともいえる原材料の在庫評価影響額はそれぞれいくらずつ入っているか）。去年と今年の相対額ではなく、絶対額で教えてほしい。

平野 [A]：原材料の在庫評価影響の絶対額は、昨年度 66 億円に対応する今期の実績はマイナス 50 億円である。

質問者 [Q]：原材料の在庫評価影響で 50 億円、立ち上げ遅れが無い場合はさらに 10 億円プラスとなるため、実態は製錬セグメントを中心として 60 億円程度上振れる。また、円高影響で営業外損益に 50 億円の外貨建債権債務の為替差損計上がなければ、さらに 50 億円高かったと理解する。そのスタートから、通期営業利益 100 億円は十分に到達可能と見ているか。一過性要因によるビハインドを取り返していくのは、それなりの勝算があるか。

平野 [A]：在庫評価影響については、為替が想定よりも 5 円有利であるという部分が浮いてくるが、基本的にはその 5 円分のみが外部環境によって取り返される。自助努力で取り返していく部分は先ほど別途申し上げた定期炉修後の生産立ち上げや、持分法化で利益が下がっている部分についての相当額、数量の部分である。

質問者 [Q]：金属事業で、小名浜の銅精鉱の処理能力縮小の話がある一方、直島は銅精鉱の処理能力を 27 年度に向けて基本的に引き上げる計画だと思うが、これは計画通りにやっていくのか。小名浜と直島のバランスについて解説してほしい。小名浜について、銅精鉱の処理能力を縮小しながら、E-Scrap の処理量を増やしていくという話もある。これは、29 年の前処理設備の稼働までは難しく、まずは電気銅の生産量が減っていくということか。

田中 [A]：直島については、計画通りに銅精鉱処理はやや増産、E-Scrap 処理は増産で進める。小名浜については定修後から、銅精鉱の処理を減少させ、E-Scrap 処理については据え置きすることで、相対的に E-Scrap の処理比率が上がる。29 年度の小名浜の前処理設備の導入については、精査中である。

質問者 [Q]：超硬工具で 10 月 1 日の受注分から値上げを発表しているが、こちらの取り組みについて、解説してほしい。

平野 [A]：第1四半期の値上げによる効果については、月当たり約1.4～1.5億円程度の利益の改善になると試算している。今後もエリアごとの事業環境を見極めながら、必要に応じて価格改定を検討していきたい。

質問者 [Q]：通期の計画との対比で、足元の事業環境を教えてください。為替の影響について、第1四半期は前年同期比で見るとマイナス、通期で見た場合は今の為替であれば、もう少しプラスの影響が出てくるのか。超硬工具の自動車向けの数量がちょっと弱いという印象がある。

平野 [A]：為替の前提が1ドル140円に対し、1ドル145円周辺を推移してきている。想定よりもやや円安で推移している分、上振れている。この第1四半期において、加工事業で販売数量が落ちているが、営業利益、経常利益見通しからやや遅れている程度である。それ以外で何か計画と大幅に乖離しているものはない。

質問者 [Q]：超硬工具の第1四半期の販売数量の実績、前年同期比での伸び率、地域別もあれば教えてください。

平野 [A]：全体としてはマイナス3.9%。地域別では、日本がマイナス7.6%。中国がマイナス16%。アジアがプラス7.9%。欧州がマイナス4.2%。北米がプラス3.4%。中南米がマイナス12.3%。その他地域がマイナス30.6%となる。絶対額は、売上高を円ベースに置き換えた金額としては230億円である。

質問者 [Q]：第1四半期の加工事業の営業利益が30億円と通期97億円と比べて、進捗が良く見えるが、どう解釈すればよいか。

平野 [A]：今期ずば抜けて多い感じはないが、一つ要因としては、タングステンパウダー等を買っている日本新金属が考えられる。中国のレアメタルの輸出規制に伴い、供給不安が高まった。これを背景に、日本新金属の売上、利益が通常期に比べてやや多い。

質問者 [Q]：田中社長就任後、拡大路線だったところを見直し、高付加価値化・スリム化などを組み合わせながら、収益の立て直しを図っていく方針に切り替わったと理解する。中経発表のタイミングに関わらず、取り組みを進めたところも、早速動きが出始めたという印象である。これらの動きが今後、単発に留まらず、大きな方針変更として、加わってくると考えてよいか。

田中 [A]：ご指摘の通り、検討を開始し、公表可能となったものから発表している。これで終わりではなく、聖域なき構造改革を引き続き検討している最中であるため、公表できるタイミングが来たら、追加で公表する。

今年度はネガティブ要素を吐き出そうと思っている。通期業績予想を据え置いていることについては、為替によって上振れしているが、構造改革費用を少し引き当てる必要があるという背景がある。

質問者 [Q]：電子材料事業で、データセンター、AI 系が強いという話だが、減益になっている。プラスとマイナスの入り繰りがあると思うが、増減益分析ではほとんどゼロになっている。この辺りを今後の期待値も含めて解説してほしい。

セグメント概況（銅加工事業・電子材料事業）

銅加工事業

銅価格が前年同期比で下落したことなどにより、経常利益は△9億円（前年同期比△17億円）
在庫評価影響除きの1Q実績は営業利益3億円、経常利益△3億円

項目	25年3月期 1Q実績	26年3月期 1Q実績	増減	26年3月期 通期予想
売上高	1,130	1,103	△27	4,702
営業利益	17	△2	△20	73
経常利益	8	△9	△17	26
25年3月期1Q経常利益		8		
為替差		△1		
価格差		△7		
数量差		△2		
受取配当金		△0		
持分法損益		－		
その他		△5		
26年3月期1Q経常利益		△9		

電子材料事業

精密実装材料の販売が好調だった一方、シール製品の販売減少などにより経常利益は9億円（前年同期比△5億円）

（単位：億円）				
項目	25年3月期 1Q実績	26年3月期 1Q実績	増減	26年3月期 通期予想
売上高	198	216	+18	882
営業利益	7	5	△2	40
経常利益	14	9	△5	53
25年3月期1Q経常利益		14		
為替差		△0		
価格差		△0		
数量差		△0		
受取配当金		+0		
持分法損益		△0		
その他		△3		
26年3月期1Q経常利益		9		

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

12

平野 [A]：特徴的な動きということでは、電子材料事業の中に含まれる精密実装材料の販売が好調だった一方で、シール製品については、客先在庫過多という状況が続いており、こちらの販売が減少した結果、合計した際に減益という形になっている。

質問者 [Q]：銅加工事業の西日本生産拠点の統合は、具体的にはこういった製品をどのように集約していくのか。構造改革費をもう少し積む予定ということだが、経常利益段階で出てくるのか、当期利益段階のところで特別損失で出てくるのか。

田中 [A]：銅加工事業の西日本拠点の統合については、主な目的は生産体制の最適化で、物理的に製造拠点を統合するということではない。堺工場と三宝製作所をそのまま存続した状態で、計画の

一本化、管理する組織の合理化を行う。構造改革については、内容によっては経常利益段階で出てくるものもあれば、特別損失で出てくるものもある。

質問者 [Q]：キャッシュフローについて、期初計画では営業キャッシュフローが YoY で 900 億円程度良化するというものであった。1Q の進捗と今後の見通し、達成の確度について教えてほしい。

平野 [A]：期初計画は 900 億円程度フリーキャッシュフローが良化するというものである。現在の進捗は、金属事業での定期炉修後の立ち上げが遅れたことで 6 月末時点の仕掛品が期初段階での想定よりも少し多くなり、その分の運転資本がやや期初計画に対してビハインドしている状況である。年度末までには解消されるため、計画から大きく外れずに着地する見通しである。

質問者 [Q]：今回業績予想は修正していないが、今後の構造改革に伴う費用の計上によって、当期利益が会社計画よりも下がった場合、配当に関してはどのように考えているか。

田中 [A]：現時点では明確なことは申し上げられないが、現在の業績予測の状況では、配当には影響を与えないと考えている。

諸元

主要製品の生産・販売動向

項目			25年3月期							26年3月期
			1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q
電気銅	生産量	千 t	112	102	214	98	85	183	398	81
	販売量	千 t	102	93	195	88	79	167	362	77
金	生産量	t	9	9	19	10	10	19	38	4
	販売量	t	9	9	19	10	10	19	38	4
銀	生産量	t	81	75	156	69	75	144	301	49
	販売量	t	82	74	156	69	76	145	302	47
伸銅品	販売量	千 t	29	29	58	31	29	60	117	31

鉱山配当額の推移

項目			25年3月期							26年3月期
			1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q
Los Pelambres	配当額	億円	—	—	—	137	22	160	160	—
Escondida	配当額	億円	8	—	8	27	—	27	36	22
鉱山配当額計	配当額	億円	8	—	8	164	22	187	196	22

金属価格・為替の推移

項目			25年3月期							26年3月期
			1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q
ドル為替レート	円/\$		156	149	153	152	153	153	153	145
ユーロ為替レート	円/€		168	164	166	163	161	162	163	164
銅価格(LME)	¢/lb		442	417	430	416	424	420	425	432
金価格	\$/oz		2,338	2,476	2,407	2,662	2,862	2,762	2,585	3,280
パラジウム価格	\$/oz		972	970	971	1,011	961	986	979	990

質問者 [Q]：補足資料の 15 ページ目の主要製品の生産販売動向、金銀の生産販売ともに、やや弱含んでいるように見える。こちらの背景と第 2 クォーター以降の見方について教えてほしい。

平野 [A]：金銀の生産販売とも実際に数値として少なくなっている。インドネシアの PTS からの金銀スライムの処理分が前年度第 1 四半期には含まれていたが、昨年 12 月以降、現地での輸出許可が下りず金銀スライムが処理できていないことが背景にある。

[了]
